

森空バイオリファイナリー合同会社に JAL が出資
国産木材由来の国産 SAF 実用化に本格参画へ
～ 2027 年からの純国産バイオエタノール製造を目指しプラントの建設が始動 ～

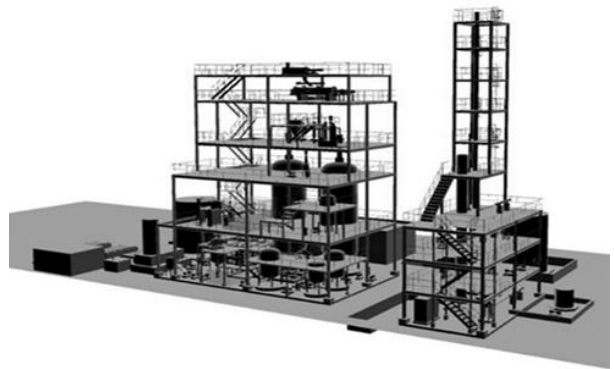
Green Earth Institute 株式会社（以下「GEI」）は、日本製紙株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：瀬邊 明、以下「日本製紙」）および住友商事株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長執行役員 CEO：上野 真吾、以下「住友商事」）とともに、「木質バイオマスを原料とするバイオエタノールおよびバイオケミカル製品の製造販売事業（以下、「本事業」）」を目指し、森空バイオリファイナリー合同会社（本社：東京都千代田区、代表社員：日本製紙株式会社）以下、「森空バイオリファイナリー」）を設立しました*¹が、この度、日本航空株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：鳥取 三津子、以下、「JAL」）は、国産木材由来のバイオエタノールを用いた持続可能な航空燃料（以下、「SAF」）の実現に向けて、森空バイオリファイナリーに出資しました。これにより、本事業への出資者は、4 社になります。

今回、本合弁会社に出資することになった JAL はこれまで 10 年以上にわたりバイオ燃料の普及推進に取り組み、2025 年 3 月から「森空プロジェクト®」にも参画してきました*²が、このたび、SAF 利用者の立場である航空会社として出資することで、国産木材由来の「純国産 SAF」事業の実現に貢献します。

森空プロジェクトとしては、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の「バイオものづくり革命推進事業／純国産木材バイオリファイナリーによる世界最高クラスの低炭素バイオエタノール生産プロセスの開発」事業において、日本製紙が、宮城県にある日本製紙の岩沼工場内に実証プラントを建設し、製材端材等の東北地域の持続可能な森林資源を原料に、GEI が開発した低炭素・低コストのバイオエタノール生産技術を活用し、SAF 向けのバイオエタノール製造を目指します。10 月 3 日には宮城県の日本製紙・岩沼工場内にて、バイオエタノールの実証プラント建設のための地鎮祭を執り行いました。当日は岩沼市長をはじめ、経済産業省、国土交通省、宮城県等多数の関係者が集まり、本事業の安全な進捗を祈念しました。この実証プラントは 2026 年度中の竣工を予定しており、生産能力は 1,000 キロリットル／年と、量産化に向けた技術開発に利用されます。2030 年までに年間数万キロリットル規模のバイオエタノールおよびバイオケミカル製品を生産可能な商用プラントの稼働を目指します。



実証プラントの地鎮祭の様子



実証プラントイメージ

GEI は、今後も、本事業の参画者とともに「森空プロジェクト®」を通じて国産木材を活用した純国産 SAF の量産と普及に取り組み、脱炭素化社会実現と地域の活性化、持続可能な未来づくりに貢献してまいります。

- ※1 [2025 年 2 月 17 日 当社ニュースリリース「木質バイオマスを原料とするバイオエタノール等の製造販売を行う合弁会社設立へ」](#)
- ※2 [2025 年 3 月 17 日 当社ニュースリリース「JAL、エアバス、日本製紙、住友商事、GEI が 国産木材由来の純国産 SAF 実現に向けた覚書を締結」](#)

以上